

もりもり通信

(森ヨシヒコ後援会報)

No.23



八王子市議会議員

森ヨシヒコ 市政報告

(このレポートは市政・地域情報として、地域の方にも配布しています。)

つくろう 市民自治の豊かな社会



はじめに

秋の定例会は決算議会です。この間、物価高が市財政に与える影響について、何度かニュースでお伝えしてきました。戦争による資材高騰、積極財政の副作用である円安が絡み合っ、日本国内のインフレが続いています。生産年齢人口の減少により人財獲得競争が進み、賃金相場も上がっていますが、物価高に追いついていないという声があちこちから上がっています。行政の役割は市民の共有財産を生かし、暮らしを支えることにありますので、市財政の健全性は重要ですが、それ以上に暮らしの安心につながる施策の質や量が問われます。決算審査の評価は、次年度予算編成と表裏一体です。2期目の任期も3年半が過ぎ、議会で質問できる機会も数えるほどになりましたが、市民の声を一つでも多く市政に反映できるよう引き続き努めてまいります。



10/3 八王子中央公園「桑都の杜」がオープンしました。

八王子市議会第3回定例会(9/1~10/8)

決算審査は2025年度に実施された事業を振り返り、成果や効果を見極めるとともに、経営や今後の事業運営の改善について意見要望する最大の機会です。

2026年度の財政状況は歳入・歳出ともに過去最大級のものとなりました。市税収入率は現年度分において99.9%と三多摩トップ、市の借金である公債費の圧縮、今後の財政需要に因應するための積立金も上乗せできるなど、経営的な指標は良好です。しかし指標以上に



森 喜彦(もりよしひこ) 1981年生。2006年八王子市役所に入所。2019年より八王子市議会議員(2期目)。無所属(会派は立憲民主・市民の会)。総務企画委員会委員、南多摩斎場組合議会議員、国民健康保険運営協議会委員(会長)。私立海城中学校・高等学校、東京都立大学卒(法学部)。趣味は天体観測、登山、自転車、バイクツーリング、アマチュア無線など。保護猫3匹と同居中。清川町在住。

重要なのは、支出をもって住民サービスへのアウトプットを適切に行えたかどうかです。昨年、市は企業誘致の取り組みを積極的に進め、市内企業の経営や人的交流を促進するなど、産業活性化に力を入れましたが、過去最高とされる税収は、コロナ禍以前の水準と物価高を踏まえて比較すると4%程目減りしています。これはどの自治体も一様に起きている事象ではなく、税収減収の原因を見極める必要があります。

今回の議会で森ヨシヒコは一般質問のほか、決算審査の会派代表質疑、議員提議案2本の提案を行いました(後述)。



決算等審査会派代表質疑

決算審査にあたり、会派を代表して質疑に立ちました。中核市10年目の総括、重層的支援体制、多文化共生、共創と地域自治など、12項目の質問を行いました。質問の軸は「人への投資」です。地域の持続的な発展は、行政や企業だけでは実現できません。八王子市は数多くの市民活動団体があり、子育てや環境をはじめ、様々な地域課題に向き合っています。市民や企業が、市と対等なパートナーとして提案し、新たな価値ある取組を創っていくためには、行政側もそれを受け止めるだけの知識や現場力を持っていなければなりません。10月3日に八王子中央公園(桑都の杜)がオープンしましたが、施設はあくまで受け皿であり、大事なものは人が集まり、ともに育つ場所としてどれだけ活用できるかです。利用者の要望を可能な限り受け止め、人が人を呼ぶような場所になることを期待しております。

一般質問その1「こども科学館」

こども科学館(コニカミノルタサイエンスドーム)の開設は1989年。開設されてから37年が経過しました。10年前に大規模修繕と展示のリニューアルを行いました。館の老朽化は進み、子どもたちに学んでもらいたい内容や手段も多様化しています。こども科学館の事

業運営計画は2019年に策定されたものの、次期計画が定まっていない状況でしたので、学びの体験、質や幅を充実させるために、市の方向性を尋ねました。現状、ハード面の整備ではなく講座や実験などソフト面の充実をしていきたいという市の考えが示されました。質問をつうじて大学や企業による展示協力、ボランティア募集などの提案も行いましたが、施設修繕・展示の見直しは遠からず必要になるものと思われます。



一般質問その2 GIS の活用

GIS(地図情報システム)は、グーグルマップやカーナビでおなじみ、電子地図に複数の情報レイヤーを重ね合わせて表示できるシステムです。八王子市でも業務用の「統合型 GIS」と、市民向け公開型 GIS「はちおうじマップ」が整備されています。GIS の利用例として、地域の人口分布、福祉施設の性質や位置、施設の老朽化情報、交通情報などを重ね合わせることで、使い易い施設の要素を把握したり、施設再編をする上で考慮すべき複数軸の要素を整理したりできます。現状市が業務で使っている統合型 GIS は所管横断的な使い方をしていないということでしたが、政策課題の発見や研究など様々な利活用を提言しました。

地方財政の強化・充実に関する意見書(全会一致可決)

決算の項でも触れましたが、物価高や行政ニーズの増加により、地方財政は厳しい状況が続いています。地方独自の財源を確保できるよう、税制も含めて制度改正することが本来望ましいのですが、地方交付税をはじめとした国による再配分に大きく依存しているのが現状です。消費税はじめ税制の改正は地方財源の減少を引き起こすことも考えられます。地方が必要とする財源が適正に算定され、必要額が確保できるよう、意見書をもって要望するものです。

非核三原則の堅持を求める意見書(全会一致可決)

核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず。この三原則は1971年の国会決議以来、歴代内閣が一貫して堅持してきた平和国家の根幹をなす理念です。しかし、高市

首相のもとで安保関連三文書の年内改定がすすめられ、非核三原則の見直しも議論の俎上にあります。

日本は唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶と恒久平和の実現を国際社会に訴える歴史的責務を負っています。八王子市議会は1982年6月、世界の恒久平和は人類共通の願望であるとの認識の下、非核三原則の完全実施を願い、八王子市非核平和都市宣言を全会一致で採択しています。被爆の実相を継承し、核兵器の非人道性を訴え続けることは、八王子市民にとっても揺るぎない願いです。今日、国際緊張の高まりや安全保障環境の厳しさを指摘する声もありますが、日本の核武装容認は他国に攻撃の口実を与え、防衛費のさらなる拡大で市民生活を更に困窮させるなど、百害あって一利なしです。核兵器の非人道性を改めて世界に示し、核兵器のない平和な世界の実現に向けた歩みを止めることなく進めていくことが求められています。

森ヨシヒコが提案した2本の意見書はいずれも全会一致で可決し、国へ送付されました。

写真で振り返る最近の活動



ごみ収集ボランティアと民踊流しで汗を流す八王子まつり



八王子駅前でも反戦ペンライト集会



市民運動を考える講演会

ニュースに対するご意見や感想、市政相談は下記まで気軽にお寄せください。後援会の加入、ポスター掲示の御協力、ポスティングなどのボランティアをしてくださる方もお待ちしております。

発行・問合せ先：森ヨシヒコ後援会
〒193-0804 東京都八王子市清川町 19-10
Tel: 070-5580-6844/Fax: 042-698-5013
ホームページでの発信も行っています。
通信のバックナンバーもアップしています。(右 QR コード)
E-mail: info@moriyoshihiko.net
WEB: <https://www.moriyoshihikohachioji.com/>

